

北方学園の基本理念(案)について

資料1

基本理念(案)

だれもが安心して学び合える学園

- 子どもの9年間に責任を持つことにより、一人ひとりの理解を深め、安心して生活できる学園
- 専門性の高い授業や9年間の系統的な学習により、学習意欲を高め、楽しく学び合える学園
- 地域や幼保・高校との連携を強め、地域コミュニティの中心となれる魅力ある学園

検討委員会の意見から

- ・公立の義務教育を行う学校として、「だれもが」という言葉はキーワードとして入れるべきである。
- ・「だれもが安心・安全に楽しく学べる」ことが全ての基礎であり、最も大切にしたい。
- ・「だれもが」ということに関連して、特別支援教育も大切にしたい。一人ひとりの子どもがお互いを尊重し合える学校にしていきたい。
- ・これまでの小学校、中学校では経験ができない異年齢の子どもたちのコミュニケーションが生まれる。将来の地域のコミュニケーションにつながり、協力し合って地域を担う人材育成ができる。
- ・小学校で担任した子どもの、中学校での生活の様子を見ることにより、問題行動などに早く気づき、中学校の教員と連携して素早く対応にあたることができる。
- ・保護者の立場からは、学校で伸び伸びと学んでほしいと思う。
- ・学園構想を機会に、学校と地域との連携を強め、各学園がそれぞれの地域コミュニティの中心となり、より地域に開かれた学園にしていきたい。
- ・教科担任制の拡充による専門性の高い授業は、子どもの興味関心を高め、深い学びにつながると思われる。
- ・小学校入学前の時期にも焦点をあて、保護者と連携することが大切である。
- ・小中一貫教育だけではなく、幼保小中高を見通した教育を推進すべきである。そのことが教員の指導力向上にもつながる。
- ・これからの社会情勢を考えると、英語教育などの特色ある教育を充実させ、魅力ある学校にしたい。

□北方町の現状から

- ・いじめなどの問題行動がなく、安心して学べる学校を望む声が多い。
- ・考えを出し合って学びを深めていくことが北方町の子どもたちの課題である。

□国の動きから

- ・知識の理解の質を高め「主体的・対話的で深い学び」ができるようにすることがこれからの重要課題として示されている。

□義務教育学校のよさから

- ・9年間を通して小中の教員が共に一人ひとりの子ども理解を深めることができる。
- ・発達段階に応じて徐々に教科担任制を取り入れ、専門性の高い授業ができる。

重点
「深い学び」
「安心・安全」
「自信・誇り」

北方学園の教育方針(案)

【基本理念】

だれもが安心して学び合える学園

深い学び

学習意欲の向上

- 教科担任制の拡充
 - ・専門性の高い授業の実施
- 小中一貫した学習計画の実施
 - ・先取りと学び直しの効果的な設定
- ICTの活用
 - ・興味・関心を高める教材提示

主体的な姿勢

安心・安全

落ち着いた生活

- 9年間を通じた児童生徒理解
 - ・安心して学び合える集団づくり
- 異学年交流の充実
 - ・多様な交流による豊かな心の育成
- 家庭や地域と共に育む取組
 - ・コミュニティ学園の活動推進

共に生きる姿勢

誇り・自信

特色ある教育

- 英語教育の充実
 - ・コミュニケーション能力の向上
- 平和・ふるさと学習の推進
 - ・9年間の系統的な学習の実施
- 学校間、校種間の交流
 - ・視野を広め、自ら高まる姿勢づくり

やり抜く姿勢

9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む

「だれもが安心して学び合える学園」づくりを進め、 「たくましい北方の子」を育む

深い学び

学習意欲の向上

□教科担任制の拡充

5年生くらいから徐々に教科担任制を導入し、授業の専門性を高め、子どもの学習意欲の向上を図る。その際、教員の配置によって、毎年実施教科が変わることがないように、計画的、安定的に指導体制を整える。

□小中一貫した学習計画の実施

先取りや学び直しを位置づけ、確実に学習内容を身に付けられるようにする。また、学習内容の系統性を踏まえた指導により、各教科に対する興味・関心を高め、より理解が深まるようにする。

□ICTの活用

学習内容に対する子どもの興味・関心を高め、理解を深める教材提示をするとともに、ICTの活用により、プログラミング的思考、情報活用能力を育成する。また、タブレット等の活用により、個に応じた指導の充実を図る。

安心・安全

落ち着いた生活

□9年間を通じた児童生徒理解

一人ひとりの児童生徒の様子について、9年間を通して切れ目なく理解を深め、個のよさを伸ばすことによって、互いに認め合い安心して学び合える集団づくりをする。また、生活のきまりなどについて、9年間を通して整合性を図ることによって、安心して生活ができるようにする。

□異学年交流の充実

中学校時代の生徒が、低学年の児童と触れ合うことで、心の安定や思いやりの心が育つことが期待できる。義務教育学校になることで、様々な形態の異学年交流が可能となる。各発達段階に応じて豊かな心の育つ交流活動を計画的に設定する。

□家庭や地域と共に育む取組

現在進めているコミュニティ学園の取組を推進し、地域、家庭、学園が共通の目標を持つとともに、それぞれの役割を果たし、学園運営に参加することで、安心・安全な教育環境づくりを推進する。

誇り・自信

特色ある教育

□英語教育の充実

英語教育の充実を特色ある教育の1つに掲げ、主体的に英語力検定に挑戦する姿勢を育て、自信がもてるようにする。また、小学校段階からの先取り学習や外部人材の活用等により、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

□平和・ふるさと学習の推進

現在、北方町で進めている平和学習について、9年間の系統的なカリキュラムを作成し充実を図る。また、地域行事に積極的に参加している児童生徒のよさを生かし、地域を担う資質を育てる、ふるさと学習を計画的に設定する。

□学校間、校種間の交流

町内で義務教育学校2校になるよさを生かして、高め合ったり、協力し合ったりする関係を築いていく。そのために、共同活動、発表会や競技大会などの設定を工夫する。また、幼保、高校との連携を図る。

北方学園構想の趣旨

～ 将来に向けた魅力ある学校づくり ～

課題

- 施設面**
 - ・西小の小規模・単学級化
 - ・各学校の空き教室の増加
 - ・各学校の校舎や施設の修繕費の増加
 - ・南小校区の中学生の遠い通学距離
 - ・給食調理場の老朽化
- 教育面**
 - ・中学校入学時の急な環境変化
 - ・中学校教員の町内異動不可能な体制
 - ・新しい時代に対応する教育
 - ・校種間の連携強化（15歳に責任）
 - ・より個に応じた教育



学校体制を見直すべきタイミング
～よりよい教育をめざして前向きに進める～

方針

- ・既存施設を生かした効率的な学校運営
- ・北方町の特色ある学校づくり
- ・だれもが安心して学び合える学校
- ・一人ひとりの能力を十分に伸ばす学校
- ・幼保小中の連携強化



義務教育学校
(小中一貫教育)
2校体制

[2023.4 開校予定]

よきライバル関係の構築

[小中4校]

北方小学校

北方西小学校

北方南小学校

北方中学校

[義務教育学校2校]

北学園

南学園

学校名は仮称



効果

- 学力向上**
 - ・教科担任制の拡充
 - ・9年間を見通した指導計画
- 生徒指導の充実**
 - ・9年間を通じた児童生徒理解
 - ・安心して中1へ進級
 - ・地域をよく知る教員の増加
 - ・中学校の教職員数の増加
 - ・異学年交流の充実
- 特色ある教育の推進**
 - ・9年間の系統的な英語学習
 - ・平和・ふるさと教育



魅力ある学校づくり

(大学等関係機関と連携)



北方町の特色・魅力に